

認知症の人と家族への援助をすすめる 第32回 全国研究集会in長崎

AD180717 認知症 老年4 長崎県 主催：山崎とるる、佐藤浩二、山崎とるる

「認知症の人と家族の会」長崎支部が、設立30周年記念イベントとして第32回全国研究会(全研)を長崎ブリックホールで開催し、ほほえみ会からも3名参加しました。毎年「認知症相談会」でお世話になっていることもあり、何はともあれ「行かんば!!」という気持ちでした。

心配された集客も予定の900人を超えたとききました。

今回のテーマは、「寄り添う心で支え合う」=認知症の人と家族を地域で支える地域包括ケアを目指して=ということでした。

医師の教育にあたっている長大の永田先生、若年性認知症を患いながら短歌をよむ福田さん、生徒に認知症についての学習をされる小学校の山口先生「認知症カフェ」に取り込んでいる高橋さんなど、それぞれの立場から現状報告を入れてお話がありました。

小値賀でも「認知症」について少しずつ対策がとられてきているようです。「認知症になっても安心して暮らせるおぢか」であるために、私たちは介護経験者として、どうあるべきだろう……。そんな思いにひたった帰り道でした。



♪「ほほえみ会」に遊びに来ませんか♪

介護にお悩みの方、お困りの方「ほほえみ会」に遊びに来ませんか「ぐらほ」にまじりに「んねー」皆と語りせば気も晴れて「ニコニコ」して帰れるよ♡ 奇数月の25日 待ってまー可♡

連絡先 ほほえみ会 代表 下山 56-3320
事務局 伊藤 56-3265



ほほえみ会活動

第10回 認知症相談会開催

9月28日(水) 村上さん、松尾さんが大雨の中遠路来てくださいました。フェリーが、定刻通りに着かなかったりと大変お疲れの中、休憩もそこそこに相談にのっていただきとても感謝の気持ちでいっぱいです。

相談にこられた方々は、みなさん声をそろえて「話を聞いていただいて良かった〜」「アドバイスをしてもらって、安心しました。ほっとしました〜」と帰って行かれました。

心の中に思っているより、話を聞いてもらうことが大切なことかもしれませぬ。

相談会の後に、「ほほえみ会」のメンバーと懇親会をしました。楽しく有意義な時間を過ごすことができて、私たちも勉強になった相談会でした。



リーフレット配布



世界アルツハイマーデー(9月21日)にあたり、ほほえみ会でも9月20日リーフレットを配布して啓蒙活動を行いました。当日は足を止めてくださった町民のみなさん、ありがとうございました。また、お手伝いをしてくださった「おぢかの家」の職員の方ありがとうございました♡



「認知症の人と家族の会」の会員の経験からまとめた早期発見の目安です。いくつか思いあたることがあれば専門家に相談してみることがよいでしょう。

- 慣れた道でも迷うことがある
- 些細なことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた
- ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える
- 下着を変えず、身だしなみを構わなくなった



「認知症カフェを……」

認知症の人、家族も、地域の人、専門家もみんなが集まれる「認知症カフェ」。新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)でも推進され、全国722市町村に2253カ所できたという。地方の空き家で認知症カフェができたなら、認知症の人が、いろんな人と触れ合うようにしたい。地域包括ケアづくりは人と人をつなげ、地域に血を通わすことが問われる。単に介護問題への対応としてではなく、地域のみなが健康でいきいきと、幸せに暮らせるように、ユニークな発想を提案していきたい。

平成28年11月20日付毎日新聞より抜粋

編集後記

「もういつかおぢかお正月〜」
介護者のおぢさんうまく息抜き
できましたか〜。おいお年とお迎え
ください。